

ハンセン病って？

先日、約10年ぶりに岡山にある母の実家を訪ねました。「おじいちゃん、ホントにご無沙汰。コロナ、大丈夫やった？」「ありがとう、大丈夫や。おーきゅーになったな。世間ではコロナ差別とかゆーとるけど、もつと昔から同じような差別があつたの知ってるか？」「え？それ何？」

「ハンセン病ゆーて、患者さんや家族がもんげー(ひどい)差別をされたんですよ」

ハンセン病のことをまったく知らなかった私に、祖父はいろいろと教えてくれました。

ハンセン病は、らい菌によって起こされる感染症です。らい菌の病原性や感染力は弱く、仮に感染しても発病することはまれですが、症状は主に末梢神経と皮膚に現れ、進行すると運動マヒにより顔面や手足など目に見える部分に変形がおこります。病気が治っても目に見える形の後遺症があることや、「遺伝病」「不治の病」「恐ろしい病気」と誤解されたことが偏見や差別の要因となりました。

さらに、明治以降、すべての患者を強制的に隔離する施策がとられました。患者を見つけ出



毎月11日は「人権を確かめ合う日」

ご意見は人権・男女共同参画推進室 (☎63・7909)へ

し、療養所に送り込むことが正しいこととして、国民の中に意識付けられました。療養所の多くは人里離れた山中や離島に設置され、収容された患者は、故郷を奪われ、家族を奪われ、子孫を残すことさえも許されませんでした。戦後、特效薬ができましたが、国は隔離政策を続けました。隔離政策の根拠となっていた「らい予防法」がようやく廃止されたのは一九九六年のことでした。

「岡山にもその療養所があつてな、おじいちゃんそこへ行って、回復された方に話を聞いたことがある。強制労働させられて症状が悪化したこととか、強制的に断種されたこととか、いろんな体験談にほんまに胸が締め付けられたわ」

さらに祖父は話を続けました。

「ハンセン病回復者やその家族への差別は今も続いていて、とても根深い。ハンセン病を正しく理解して、偏見と差別をなくす努力を続けるんが必要なんやで」

ハンセン病を知らなかった私にハンセン病を「正しく」教えてくれた祖父に感謝しています。

12/4 ▶ 10 人権週間

大切な人へのメッセージ



たまには、気持ちを言葉にして伝えてみてはいかがでしょう？

市では、人権メッセージ「あなたの大切な人へ…～140文字で綴るあなたからのファンレター～」を9・10月に募集。今年度も、高校生を中心に、思いのこもった498通ものメッセージをお寄せいただきました。ここでは、入選作品をご紹介します(原文のまま表記しています)。

☎人権・男女共同参画推進室 63・7909

家族へ(高1)



私が辛い、学校に行きたくないって言ったとき、ひとりじゃないし私がいるから大丈夫やでって元気づけてくれてありがとう。泣いたときは背中をさすって傍にいてくれてありがとう。家族みんなが私のことを気にかけてくれたおかげで今は毎日楽しく学校に通えるよ。いつもありがとう だいすきです。

おばあちゃんへ(高3)



人一倍心配症なおばあちゃん。そんなあなたの口ぐせはいつも「大丈夫?」。誰よりも一番私のことを想ってくれて、すること全てに全力で応援してくれる そんなおばあちゃんが私は大好きです。私はもう高校三年生。必ず夢を実現します。なので、これからも私の側で元気いっぱい笑っててください

旅立つ息子へ(一般)



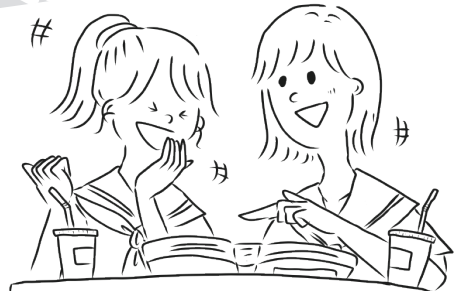
二人の兄達とは七～八才離れている三男の息子が漸く住み慣れた我が家を離れる事になりました。ここにくる迄、日々や時間が掛かりましたね。時には、私達と険悪になった時もありましたが、今ではそれも苦い経験となりましたね。これから先、色んな困難もあるかと思いますが、どうか乗り越えて頑張ってください。応援しています。

母へ(高1)



私にはとてもすごい母がいます。私の母は毎日毎日朝、昼、晩とご飯を作ってくれます。私は野球をしており、洗うのがしんどい泥だらけのユニフォームを毎日揉み洗いをしてくれます。私はそんな母に直接感謝の言葉を伝えることは恥ずかしいのでここで言います。いつもありがとう。

友人へ(高1)



いつも支えてくれる友達がいる。私を見てくれる友達がいる。わがまま聞いてくれる友達がいる。怒ってくれる友達がいる。親身になって悩んでくれる友達がいる。愛してくれる友達がいる。私もそんな友達になれているといいな。いつもありがとう。

